

## 5年生

### 北海道の米作りの工夫をさぐろう

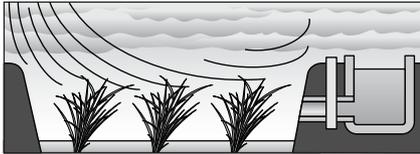
1. 下の文章の（ ）にあてはまる言葉を、下の□から選んで書きましょう。

稲(お米になる植物)が育つためには、苗から収穫まである程度の平均温度以上の日がないとうまく育ちません。日本で一番南にある沖縄県は、稲が育つのによい暖かさの気候です。沖縄県では一年間に( )トンのお米を生産しています。一方、日本で一番北にある北海道は、あまり稲作には向いていない寒い気候です。北海道は、一年間に約( )トンのお米を生産しています。

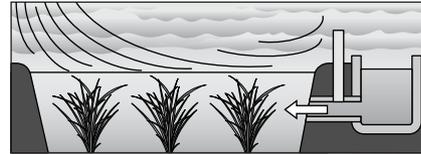
3000 30000 300万 6800 68000 68万

2. 稲が花のつぼみをつけるころ、北海道では、普通の状態では寒くて稲が育つことができません。では、農家の人はどうやって稲を育てているのでしょうか。

予想

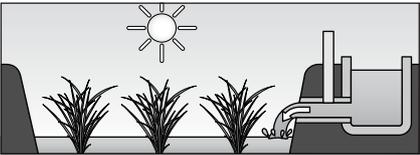


正解

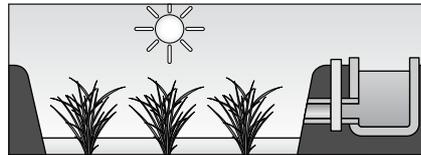


3. 北海道では、田んぼのまわりにある用水路の水をそのまま田んぼに流すと、水が冷たすぎて稲はうまく育つことができません。では、農家の人はどうやって稲を育てているのでしょうか。

予想



正解



4. 稲を育てるのが大変な北海道が、たくさんお米を作っているのはなぜでしょう。

#### 正解と解説

1. 稲は元々は亜熱帯の植物なので、暖かい気候が栽培には適しています。しかし、沖縄県の米の収穫量は、わずか3000トンです。沖縄は、大きな川がないため水の確保が難しいこと、台風の被害を受けやすいことなどの理由から、稲作がさかんではありません。北海道は、稲作ができるぎりぎりの温度という環境ながら、新潟県と並び日本有数の米どころです。2005年は収穫量が68万2800トンで全国1位、作付け面積は、新潟に次いで2位でした。ここでは、米作りに最適とは言えない環境の中、日本一米を生産している北海道の農家の工夫を考えさせましょう。
2. 水の温度は空気の温度よりもあたたかいので、田んぼの水を深くして、稲をどっぷりと水につけます。すると、稲が冷たい風に当たらないので、無事に育つことができます。
3. 用水路の水は冷たいので、一日中水を入れていると水温が上がらず稲も生長しません。そこで夜から朝のうちに水を入れて昼間は用水路の入り口をしめます。そして、太陽の力で水をあたたためて、稲を育てているのです。
4. ①広い田んぼが多く、昼と夜の温度差が大きく、水が充分にあるなど米をたくさん作ることができる環境だから。  
②きらら397のように、おいしくて寒さに強いお米が品種改良で作られたから。  
③寒さの厳しい冬の前に収穫でき、かつては安定した価格で政府に買ってもらえたから。  
といった理由が挙げられます。農家の人たちの情熱と工夫を児童に伝えていきたいものです。